2022 年　3 月 31 日

2021 年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名バイリンガル・マルチリンガル子どもネット
代表者・役職名：　代表　・　中島　和子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書（精算報告書以外）は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真（2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します）を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

バイリンガル・マルチリンガル子どものサ―ポート 2021

2. 団体の概要（創設の経緯、創設時期＝法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで）

複数の言語環境で育つ子どもの言語教育に関心のある中島和子をはじめ数人でネットワークと研究の推進の必要性を感じ本団体を立ち上げた。2016 年バイリンガル・マルチリンガル（BM）子どもネットとして理事会、学習会を国際基督教大学教育研究所との共催で開催。2021 年は国際交流基金との共催でカナダのカミンズ博士の講演会と継承言語で世界をつなぐ会を開催。会員数は日本国内外に 370 名。

3. プロジェクトの目的とその背景（※応募申請書に記載のものでも可）　250文字程度まで

我々は多言語環境（海外在住の日本人子女、日本在住の外国人で家庭内の言語と現地のことばが異なる場合や、国際結婚家庭で両親のことばが異なる環境のこと）にある子どもを、グローバル時代が必要とするバイリンガル・マルチリンガル人材に育てる支援をしている。子どもの自尊感情を高め, さまざまな困難に前向きに立ち向かい，国内外で活躍できる子どもの育成を目指している。そのような中で当事者、支援者、保護者とともに学び合う必要性を強く感じ、特に今回は年少者に対する子どもの保育・教育を理解するの為の勉強会を行う。

4. プロジェクトの内容（※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可）　300文字程度まで

複数言語環境に育つ人、複数言語の中で子どもを育てる人が実際困った際に相談する窓口がなかなか見つからない。また保育園、幼稚園、小中学校、高校など指導者自身も戸惑うことが増えている。今年度も BMCN 相談室主催の講演会を計画して、それらの人たちと共に学び子どもの成長発達に少しでも新たな角度からの知識を得ることを目指した。講師は子どもの教育・発達に詳しい汐見稔幸先生にお願いして ZOOM で行い、対象者は子どもの保護者、支援者、教師、研究者とした。多摩地域からの発信でインターネットでの参加は全世界から受け付ける。演題は「保育・教育で大切な事」で事前質問を受け付け準備する。参加者はおおよそ 50 名の規模とする。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』　300文字程度まで

講演会の情報は大阪ボランティア協会からも発信。参加者は 46 名・11 か国、日本、米国、オーストラリア、ブラジルなど。
概要は私達大人は子どもの特性を肯定しよいところを見つけることが大切である。望まれる力は、学校で身に付ける認知能力ではなく**非認知スキル**で、①好奇心、興味、関心、②試行錯誤力、失敗にめげない力、③アイデア力、発想力、④勇気、チャレンジ精神、⑤相談力、組織力、リーダーシップ、⑥落ち込んでも立ち直る感情コントロール力、レジリエンス等があげられる。その力の為には遊びを沢山経験させ脳の中の新たな情報処理の回路ができることが大切で、①没頭する②安心している③発展性がある、の 3 条件を整える必要がある。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など　300文字まで

子どもと直接かかわる人達や保護者に複数言語の環境にいる子育てに関する情報を届けることができているかどうかという点が課題である。日本国内では外国にルーツのある保護者に対して日本語で行ったこのような内容をどのように届けることができるのかということを考える必要がある。参加者のアンケートを分析すると指導者はついついわかりやすい認知的な力、例えばひらがな、カタカナ、漢字、計算等に目を向けやすいが、その他の非認知能力の重要性をどのような方法で伝えていくかということがポイントとなる。少しでも多くの人にこのポイントを理解してもらうことが今後の保育、教育の場面での状況改善の期待できるのではないかと考える。

7. 参考資料：プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

- 講演会のお知らせチラシ
- 講演会終了後のサマリー

第５回ミニ勉強会

テーマ「保育・教育で大切なこと」

開催日時：2022 年２月２日（水曜日）日本時間午前 10:00～11：30（Zoom 開室９：３０）
場　所：**Zoom 開催**
参加費：無料
参加者：保育関係者、保護者、日本語を母語としない子どもと接している指導員の方
定　員：５０名
講　師：汐見　稔幸　（しおみ　としゆき）氏
＜講師プロフィール＞
所属：一般社団法人家族・保育デザイン研究所 代表理事
肩書・専門：東京大学名誉教授・白梅学園大学名誉学長・日本保育学会理事（前会長）・ 全国保育士養成協議会会長 専門は教育学、教育人間学、保育学、育児学。自身も 3 人の子どもの育児を経験。 保育者による本音の交流雑誌『エデュカーレ』編集長でもある。持続可能性をキーワ ードとする保育者のためのエコカレッジ「ぐうたら村」村長。NHK E-テル「すくすく子育て」 など出演。

最近の主な著書：
・『子どもの「じんけん」まるわかり』2021 年（ぎょうせい） ・『教えから学びへ』2021 年（河出書房新社） ・『今、もっとも必要なこれからのこども・子育て支援』2021 年（風鳴舎） ・『エール イヤイヤ期のママへ』2021 年（主婦の友社） ・『エール プレ思春期のママへ』2021 年（主婦の友社） ・『保育者のためのコミュニケーション・トレーニング BOOK』2019 年（ぎょうせい） ・『0・1・2 歳児からのていねいな保育』 全 3 巻 2018 年（フレーベル館） ・『汐見稔幸 こども・保育・人間』2018 年（学研） ・『「天才」は学校で育たない』2017 年（ポプラ社） ・『人生を豊かにする学び方』2017 年（筑摩書房） ・『さあ、子どもたちの「未来」を話しませんか』2017 年（小学館）、ほか多数。
http://ikuji-hoiku.net/shiomi/index.html

プログラム
9:30　　受付開始
10:00-　汐見先生のお話
11:00-　質疑応答
11:30 終了

参加申込：こちらのフォームからお申込みください。　https://forms.gle/gPqFrMdhpQZv8zi7A
申込期間：2022 年 1 月 5 日（水）～1 月 19 日（水）日本時間 17 時
申し込み多数の場合は抽選。1 週間前（1 月 26 日）に参加の可否を連絡します。。
留意事項：①参加者リスト（お名前と所属）と講演後の報告書を参加者に共有します。録画録音不可
②参加にあたって、簡単なアンケートにご協力をいただきます。
③Ｚｏｏｍ情報は参加者に 1 週間前、三日前にメールで連絡します。
問い合わせ： BMCN 事務局（鈴木・高橋）Email　bmkodomonet@gmail.com
相談室ウェブサイト URL:　https://www.bmcn-net.com/hotline

※本勉強会は真如苑の多摩地域市民活動公募助成を受けています。